

誤嚥事故の防止について

1. 誤嚥と誤飲

「誤嚥」＝口腔あるいは胃の中にある内容物を誤って気管や肺の中に吸飲すること

「誤飲」＝本来経口で摂取すべきではない物を誤って食道から胃に飲み込むこと

2. 摂食障害と嚥下障害

1) 摂食障害

認知症（食物に対する認知、食欲や食べるペースのコントロール等）

上肢の機能障害 他

2) 嚥下障害

口腔期（口腔内での咀嚼・食塊形成・咽頭への移動）

↓

咽頭期（咽頭から食道入口部への移動） 気管・肺への誤嚥

↓

食道期（食道から胃へ）

3. 高齢者の身体上のリスク

姿勢保持

頸部の筋緊張

食物に対する認知（感覚器官、認知に影響する疾患・障害、覚醒状態）

咀嚼機能（義歯、舌・咀嚼筋の機能）

唾液量の減少（口腔内～嚥下後も食物がバラける、口腔・咽頭内に付着）

嚥下反射の低下（むせる、咳き込む）

咳嗽反射の低下（むせない、咳き込まない）

活動量低下による食欲低下・不十分な覚醒

疾患・内服薬 他

4. 対策を要する事故・疾患

1) 窒息

- ・ 神戸市への事故報告…死亡率が高く、救命しても重篤な後遺症
- ・ “もち”による窒息事故

2) 異食

- ・ 義歯等

3) 誤嚥性肺炎

- ・ 発生の兆候（時々熱発する等）

5. 予防対策

1) 全身機能の維持

活動量を確保

2) 個々の利用者に適した対策

詳細な観察

利用者個別のリスクを把握

効果的な方法の検討

3) 発生予防

事前の準備運動（パ・タ・カの発音、歌等）

姿勢保持

頸部の緊張状態の改善

覚醒状態

食事の形態（キザミ食でリスクが高まる場合も）・提供温度

4) 早期発見、早期対応

見守り体制

緊急対応の実習